

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1(小・中)

学校名	有田町立有田中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる授業」を目指して、「問い」「対話」「振り返り」を徹底した授業形態が定着してきたことで、「授業がわかる」という生徒が増加した。生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行うなど、指導法改善に取り組んでいく。</li> <li>・特別支援教育の充実を図るため、すべての教職員を対象とした研修の機会を設けることで共通理解の基盤となった。今後は、教職員同士が相互に細かな情報共有を行い、生徒の特性を十分理解した上でチームで対応していく仕組みを構築していきたい。</li> <li>・不登校生徒及びその保護者（家族）が抱える不安や困り感に寄り添った支援を行うことができた。学校だけでの支援には限りがあるため、個別面談やケース会議を介して、町教育委員会や関係機関、特に医療機関と連携する機会をさらに増やしていく。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	<b>郷土を愛し、未来を切り拓く 健やかな体と豊かな人間性・創造性を持つ生徒の育成</b>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① 生徒が安心感をもって一日を過ごすことができる学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して主体的に学べる学校づくり</li> <li>・自ら考え、自分で判断・決定し、自分から行動できる生徒の育成</li> <li>・生徒が自ら学びに向かう授業づくり</li> </ul> <p>② 対話を通し、人との関わりがある学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら行動（聴く・理解する・気づく）する生徒の育成</li> <li>・対話のある学級づくり</li> <li>・生徒会活動の活性化</li> </ul> <p>③ 学校と家庭、地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と家庭、地域の役割を確認し、連携して生徒の成長を支える</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・「わかる授業」を目指した指導方法の工夫の実践 ・ICTを活用した知識・技能の習得をめざし、利活用の伝達講習を実施	○(学校独自成果指標) ・「わかる授業」を目指し、教師同士の授業研究会の実施 ・単元計画を活用した授業の実践を年1回以上 ・調査やテストから生徒の苦手の理解 ・AIDRILなどを活用し、知識・技能の力を見とっている教師を75%以上	・教師同士の授業研究会から、生徒のつまづきに気づき、授業改善を行う。 ・単元計画を活用し、生徒が見通しをもって学習に取り組む環境を整える。 ・全国・県の学状の結果から生徒の困り感や苦手を分析し、指導につなげる。 ・前時の復習としてAIDRILなどを使い、指導と評価の一体化を図る。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○(学校独自成果指標) ・道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・年間35時間の道徳科の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。 ・ワークシートや振り返りの場面の設定を工夫し、生徒の変容を細やかに観察する。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○(学校独自成果指標) ・いじめ防止やいじめの早期発見・早期対応について、「迅速かつ組織的対応ができて」と回答した教師の割合が85%以上	・毎月末に定期的なアンケートを実施し、生徒の実態把握やいじめの早期発見に努める。 ・教育相談部会や生徒指導部会などで、いじめ防止や早期発見についての手立てや対応を組織的に考え、実践する。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の実践	●「先生はあなたのよいところを認め、ほめてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒が活躍する場を設定し、生徒の頑張りや良さを認める。生徒の頑張りを認める掲示板を活用する。 ・1年生では職業調べ、2年生では職場体験と高校調べ、3年生では高校説明会などを通して、将来の進路について考える機会を設ける。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ◎「望ましい生活習慣の形成」	(学校独自成果指標) ○「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ○朝食をとって登校する生徒90%以上	・「食に関する意識調査」を実施する。 ・栄養教諭と連携し、発達段階に合った食育に関する授業を年1回程度実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日の定時退勤日の推進。 ・会議の進め方や回数を見直す。 ・校務分掌等の校務を精査するとともに、複数の教職員で担当して業務を分散して遂行する。 ・時間外在校等時間の多い職員への業務内容を聞き取り、改善に向けてチームで取り組む。
	○(学校独自重点取組・任意) ・生徒と教職員に余裕のある生活リズムの確立	○(学校独自成果指標・任意) ・「働き方改革」の推進のため、平日の退勤時間部活動終了後1時間以内	・計画的な業務の遂行を行うだけでなく、優先順位を決めたり、互いに資料を共有したりして業務内容の軽減化を図る。 ・部活動顧問同士で業務内容を分担して取り組む。
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意) ・すべての教職員が連携して生徒の支援できる体制づくり	○(学校独自成果指標・任意) ・特別支援学級に在籍する生徒のうち、「学校生活に満足している」とする生徒75%以上	・特別支援委員会を設定し、定期的に特別支援教育支援会議を設け、すべての教職員が共有した視点をもって指導できる体制を整える。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○不登校対策	○(学校独自重点取組・任意) ・生徒が安心して通える学校環境づくり	○(学校独自成果指標・任意) ・毎月の「有田っ子アンケート」で「学校が楽しい」とする生徒90%以上	・毎月末の「有田っ子アンケート」の実施。 ・年2回の教育相談週間実施。 ・週1回の定期教育相談部会を設定し、生徒の状況や対応について共通理解を図る。 ・SCやSSW、不登校支援員との連携を図り、情報交換を行い、対応を協議する。
○地域に開かれた学校づくり	○(学校独自重点取組・任意) ・教職員、地域、保護者による学校の教育目標や方針の共有及び教育活動の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・学校の教育活動への地域からの参画が、学校の活性化につながったと思う割合80%以上	・学校、保護者、地域の方々と生徒が意見交換をする機会を設け、学校運営協議会とも連携し、双方向の活動を通して、生徒の主体性を育む。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育